



Vol.27 クリスマスの光



クリスマスの「光」に 込められた意味

中道基夫

関西学院大学 神学部専任講師

ドイツのある町の広場に「11月の男」と題した像が立っています。少し背中を曲げ物憂げに遠くを見つめている男は、これからの暗くて寒い冬に思いを馳せているようです。厳しい冬を目前にしたドイツの11月は、確かに人々を憂鬱にさせます。

しかし、12月が近づくと街中が光に包まれます。キリスト教の暦では、クリスマス前の4週間をアドヴェント(待降節)と呼び、イエス・キリストの降誕を待ち、それに備える時を過ごすのです。家庭にはアドヴェンツクランツ(もみの小枝で編んだ輪)が飾られます。そこに4本のろうそくが立てられ、クリスマスまでの4週間、日曜日ごとに1本ずつ灯りを点します。4本全てに灯りが点り、12月24日になるとクリスマス(降誕節)が始まります。その夜、ロウソクの灯で飾られたクリスマスツリーが家の中心に立てられ、家は暖かい光に満ちあふれます。

暗い季節の中で、1本のロウソクから徐々に光が増え、クリスマスは光に満たされる。それは罪や死、抑圧や悪を象徴する闇の支配を打ち破る光の到来、つまりイエスの誕生によって与えられた希望やいのちの輝きを表しています。最も闇が長い冬至のころにクリスマスが設定されているのは、こうした意味が含まれています。

聖書にはイエス誕生の日付は記されていません。12月25日は、正確には「イ

エスの誕生を記念する日」なのです。クリスマスに日付が定められたのは4世紀になってからであり、由来には二つの説があります。天地が創造された1日目(3月25日)という古い伝承があり、イエスの受胎をこの日に当てるなら、誕生は12月25日になります。もう一つの説では、ローマの皇帝アウレリアヌスが紀元274年に「不滅の太陽神の祭り」を冬至の近くの12月25日に定め、その後ローマの国教となったキリスト教がこの太陽神の祭りをイエス・キリストの誕生を祝う日としてキリスト教化したといわれています。

日本のクリスマスはきらびやかな電飾に彩られますが、ともすれば光の意味を見失いがちです。クリスマスは本来、一人の赤ん坊の誕生を祝う時です。赤ん坊は守られなければならない弱い存在で、その弱さを中心として人が集まってきます。それが闇を打ち破る小さな光の始まりでした。力と富とに導かれてきた世界が行き詰りを感じている中で、弱さが私たちの中心となる時、私たちの間に大切な転換が起こるのではないのでしょうか。

なかみち・もとお 実践神学、宣教学専攻。

1960年生まれ。関西学院大学神学部卒業、同大学院神学研究科博士課程前期課程修了。神学修士。日本基督教団牧師。神戸栄光教会副牧師、城之橋教会牧師、ドイツ・ヴェルテンベルク州教会宣教師、ハイデルベルク大学神学部での学びを経て、2000年より現職。主たる研究テーマは日本におけるキリスト教葬儀。



関西学院大学
KWANSEI GAKUIN UNIVERSITY

西宮上ヶ原キャンパス
〒662-8501 兵庫県西宮市上ヶ原一番町1番155号
●神学部 ●文学部 ●社会学部 ●法学部 ●経済学部 ●商学部/高等部/中学部

神戸三田キャンパス(KSC)
〒669-1337 兵庫県三田市学園2丁目1番地
●総合政策学部 ●理工学部

「Sky Seminar」のバックナンバーは、<http://www.kwansei.ac.jp/information/sky.html> で御覧になれます。お問い合わせ・・・TEL:0798-54-6017 (広報室)

ご意見・ご感想をお寄せください

関西学院大学の教員が各自の研究を語る「Sky Seminar」。この企画へのご意見・ご感想をお寄せください。抽選で30名様に関西学院オリジナルグッズをお届けします(12/31 消印有効)。宛先:〒662-8501<住所不要> 関西学院広報室 Sky Seminar 係 または e-mail:webmaster@kwansei.ac.jp (住所、氏名、年齢、職業をご明記ください)